星をみるひと

作：初瀬川幸次郎

【登場人物】

ヴィナス
サトゥルス
メルクス
ユピテル
プルト
田中

【出ハケ口】

上手：船の入り口に繋がる通路
下手：寝室以外の部屋に繋がる通路
右のドア：サトゥルスの部屋
中央右のドア：機関室がある部屋
中央左のドア：ヴィナスの部屋
左のドア：メルクスの部屋

白を貴重とした質素な部屋。
部屋の後方には各部屋に繋がるドアが４つ並んでおり、上手下手は通路に繋がっている。
そして中央にはテーブルと、その上にディスプレイが置かれている。
そこにヴィナスとサトゥルスが座っている。

部屋には歌が流れている。

ヴィナスは前面に広がる窓とディスプレイとを交互に眺めて落ち着きが無い。

ヴィナス　もうそろそろかな。
サトゥルス　いい加減落ち着けよ。
ヴィナス　落ち着いてるわよ。

サトゥルス　さっきからずっとそろそろそろそろそろ言ってるだろ。
ヴィナス　だってそろそろなんだもの。
サトゥルス　もう少しで着くから。
ヴィナス　知ってるわよ。
サトゥルス　それで着いたらどうするの。
ヴィナス　どうするって研究始めるんだけど。
サトゥルス　そんなのは分かってるよ。
ヴィナス　じゃあなによ。
サトゥルス　どうやってするの。
ヴィナス　なにが。
サトゥルス　どうやって研究するの。
ヴィナス　どうやってって現地に行かないと分からないでしょそんなの。
サトゥルス　方針とかなにかあるでしょうよ。
ヴィナス　無いわよ。
サトゥルス　言い切りやがった。
ヴィナス　いやまあなんとなくあるにはあるけど現場見ないと分からないでしょ。
サトゥルス　あまり干渉し過ぎるなよ。
ヴィナス　だから現地で決めるって言ってるの。
サトゥルス　研究テーマだけでも決まってるんだろうな。
ヴィナス　テーマ。
サトゥルス　そうテーマ。
ヴィナス　とりあえず彼らの現在の文化レベルと流行について。
サトゥルス　ありきたりだね。
ヴィナス　いちいちうるさいな。
サトゥルス　それにしても彼らはなんでこんなにバラバラなんだろう。
ヴィナス　だから面白いんでしょ。
サトゥルス　なんでこの星を選んだのか全く分からないんだけど。
ヴィナス　誰も選ばないから。
サトゥルス　言語もバラバラだしこの程度の面積でこんな統一感の無い星になるなんて失敗

作じゃないかなこれ。

窓の向こうになにかを見つけるヴィナス。

ヴィナス　着いた。
サトゥルス　ああ本当だ。
ヴィナス　地球に。地球に着いた。

ヴィナスがテーブルにあるスイッチを入れると音楽が聞こえてくる。

ヴィナス　着いたよメルクス。地球。地球に着いた。
サトゥルス　こうやって目の前に現れるとテンション上がるな。
ヴィナス　メルクスほら起きて。

後方のドアを開けて叫ぶヴィナス。

ヴィナス　メルクス起きて。
サトゥルス　着いたぞメルクス。

左のドアからメルクスが現れる。

メルクス　なにもう。
ヴィナス　見て見て見て地球に着いたよ。
メルクス　ええどれ。
ヴィナス　ほらもう目の前にあるじゃん。
メルクス　ああああれかあ。
ヴィナス　３０万年前にウラヌスが作った地球人達の星。
メルクス　ああそう。
ヴィナス　テンション低いわね。

メルクス　別に興味無いし。
ヴィナス　なにそれわたしが単位落としてもいいの。
メルクス　わたしは別に全く構わないんだけども。
サトゥルス　俺も。
ヴィナス　酷い親友でしょわたしたち。
メルクス　えそうなの。
サトゥルス　いや知らん。
ヴィナス　まあいいやとにかく手伝ってよ課題。
サトゥルス　ようするに地球人の観察日記を付ければいいんだろ。
ヴィナス　うんまあそうかなうんそうかな。
サトゥルス　それでなにするんだよ。
ヴィナス　ううむ。
サトゥルス　決めとけよ。ここまで来るのに時間あっただろ。
ヴィナス　ほらゲームとかやってたから皆で。みんな、で。
サトゥルス　お前。
メルクス　わたしは早く帰りたいんですけど。
ヴィナス　なんで着いたばかりでしょなんで。
メルクス　見たい番組がたくさんあるから。
ヴィナス　録画してきたんでしょうが。
メルクス　リアルタイムで見るから楽しいの。
ヴィナス　変わらないわよそんなの。
メルクス　変わるよ。ウラヌス人同士で番組の感想を罵り合うのが楽しいんでしょ。
ヴィナス　非生産的ね。
メルクス　なんとでも言うがいいわとにかく早く終わらせて。
ヴィナス　テンション下がるな。
メルクス　空調の調子も悪いっぽいし。
サトゥルス　そういえばちょっと暑いね。
ヴィナス　そういうメンテナンスの為に呼んだんでしょあなたは。
メルクス　そうなの。

ヴィナス　そうよ。
メルクス　なんて女だ。
ヴィナス　だから頑張って。
メルクス　今回の目的も今の会話で初めて知ったし。
ヴィナス　そうだっけ。
メルクス　『旅行行くから付いてきて』って気付いたら乗せられてたんだから。
ヴィナス　うんどんまい。
メルクス　もういいから早くしてね。
ヴィナス　おっけい。
サトゥルス　それでどうするよ。
ヴィナス　どうしよう。
サトゥルス　いやだから地球人の文化レベルと流行を調べるんだろ。
ヴィナス　うん。
サトゥルス　うんじゃない。さっきも言ったけどこの星は面積の割に人種や国がやたら多いからどこを選ぶかでもだいぶ変わってくると思うよ。
ヴィナス　そうなんだよねえ。
サトゥルス　ようするに考えてないんだな。
ヴィナス　いやいや考えてるわよ。
サトゥルス　じゃあ聞かせて貰いましょうか。
ヴィナス　この星はあまりに多くの人種と国が点在しています。
サトゥルス　それさっき言った。
ヴィナス　だから素人に選ぶのは無理。
メルクス　うわあ。
ヴィナス　なのでとりあえず勘で選びます。
サトゥルス　お前……。

ディスプレイを眺めるヴィナス。

ヴィナス　まずはこの縦長の島国にしましょうね。

サトゥルス　縦長というかなんかぐねってなってるけど。
ヴィナス　決定ですありがとうございます。
メルクス　じゃあわたし部屋に戻るけどいい。
ヴィナス　言語設定だけお願い。
メルクス　はいはいはい。
ヴィナス　それと空調よろしくね。
メルクス　はいはい。

メルクス左のドアに入る。

サトゥルス　とりあえず場所は決まったけどどうする。
ヴィナス　まあとりあえずは観察をしてみたいと思っています。
サトゥルス　ここから？
ヴィナス　うん。
サトゥルス　そんなんじゃ時間掛かって仕方ないからさっさと地球に降りた方がいいんじゃないかな。
ヴィナス　それは駄目でしょ。
サトゥルス　なんでよ。
ヴィナス　さっき自分で干渉し過ぎるなって言ったでしょうが。
サトゥルス　直接接触しなければいいだろ。
ヴィナス　もしかしてサトゥルス。
サトゥルス　なに。
ヴィナス　地球に着いてテンション上がってる？
サトゥルス　あははなにを言ってるんだそんな訳無いじゃないかあはははは。
ヴィナス　まあ気持ちは分かるけど。
サトゥルス　だから違うってば。
ヴィナス　降りるのは危険だから止めようよ。
サトゥルス　んーそうか。
ヴィナス　やっぱりちょっと残念がってるじゃん。

サトゥルス　とりあえず始めろよどうするんだよ。
ヴィナス　そうそうこれは絶対やろうと思ってたんだけど彼らにどんな娯楽があるか調べたい。
サトゥルス　ああまあそれは確かに気になる。

ディスプレイを触るヴィナス。

ヴィナス　ああほらスタジアムみたいなものがある。
サトゥルス　なんだろうこれは。
ヴィナス　なんかボール投げた。
サトゥルス　棒で叩いた。
ヴィナス　取った。
サトゥルス　なんか違う人が出て来た。
ヴィナス　ボール投げた。
サトゥルス　棒で叩いた。
ヴィナス　なんか走り回っている。
サトゥルス　なんなんだこれは。
ヴィナス　目的が分からない。
サトゥルス　他にはなにかないの。
ヴィナス　ああ他にもスタジアムっぽいの発見。
サトゥルス　なんか物凄い勢いでボールを蹴り合っている。
ヴィナス　なんで手を使わないんだろう。
サトゥルス　手を使えよ手を。
ヴィナス　イライラするね。
サトゥルス　ああでも一人だけ手を使っている。
ヴィナス　そこの線引きはどこにあるんだ。
サトゥルス　あ。こっちはなんか大きな男たちがほぼ全裸で押し合っている。
ヴィナス　あの輪から相手出したら勝ちなのかな。
サトゥルス　でもなんで裸なんだろう。

ヴィナス　なんでだろう。
サトゥルス　なんでだろう。
ヴィナス　……。
サトゥルス　……。
ヴィナス　あらこっち見てこっち。
サトゥルス　今度はなんだ。
ヴィナス　氷の上に丸い重りを滑らせた。
サトゥルス　なんか箒でその前を必死で掃いてる。
ヴィナス　他の丸いのにぶつけた。
サトゥルス　凄い喜んでいる。
ヴィナス　なんなんだ。
サトゥルス　なんなんだ。
ヴィナス　奥が深いわね。
ヴィナス　……。
サトゥルス　……。
サトゥルス　他にはないの。
ヴィナス　こっちたくさん人が座ってる。
サトゥルス　画面みながらずっと右手でノブみたいなのを捻ってる。
ヴィナス　なんか物凄く皆真剣。

しばらくその様子を見続ける二人。

ヴィナス　誰も動かないね。
サトゥルス　どうも玉を弾いてるっぽいんだけどね。
ヴィナス　ただ見てるだけなのこれは。
サトゥルス　分からん。
ヴィナス　なにがしたいの。
サトゥルス　なにかの拷問なんだろうか。
ヴィナス　とりあえずメモっとく。

サトゥルス　しとけしとけ。
ヴィナス　あとで検索してみよう。
サトゥルス　しとけしとけ。
ヴィナス　なかなか興味深いね。
サトゥルス　こんなことしてても埒があかないしやっぱり降りてみてくるよ。
ヴィナス　駄目だよ危険だって。
サトゥルス　大丈夫だよ見た目はほぼ同じなんだから。
ヴィナス　そういえばなんで彼らはウラヌス人と同じ姿してるんだろう。
サトゥルス　そんなことも知らないのかお前。
ヴィナス　ああ知りませんよ。
サトゥルス　開き直るなよ。
ヴィナス　直ってませんよ。
サトゥルス　どうして俺の方が下調べ出来てるんだよ。
ヴィナス　ここに来るまで楽しみを取っておいたのよ。
サトゥルス　なら自分で調べなよ。
ヴィナス　いけずね。
サトゥルス　じゃあ行ってくるから。メルクス。

サトゥルス、左のドアに入っていく。
少ししてサトゥルス、メルクスを伴って現れる。

メルクス　ちょっとちょっと駄目だって危険だから。
サトゥルス　いいからすぐ戻ってくるし。
メルクス　壊さないでよ。
サトゥルス　分かってるって。
ヴィナス　すぐ戻って来てね。
サトゥルス　はいはいはい。

サトゥルス上手から出て行く。

メルクス　大丈夫かな小型船壊れたら色々まずいよ。

ヴィナス　まあ大丈夫でしょたぶん。それより調査手伝ってよ。

メルクス　暇だし別にいいけど。

ヴィナス　じゃあよろしくね。

メルクス　その言い方だとあなたはなにもしないように取れるけど。

ヴィナス　正解。

メルクス　よし部屋に戻る。

ヴィナス　ごめんごめんごめん嘘です嘘ですすいませんすいません。

メルクス左のドアに入る。

ヴィナス　ああもうごめんって。

ヴィナス、一人で頑張ろうとするが、すぐに疲れてそのまま寝てしまう。

田中が中央右の部屋から現れる。

田中　ええなになにここどこ。

サトゥルスが食べ物を食べながら右のドアから現れる。

サトゥルス　おお成功した。

田中　うわ誰ここどこあなた誰。

サトゥルス　ちょっと落ち着いて。

田中　無理無理無理誰どこなに。

二人のやり取りでヴィナスが目を覚ます。

心無しか少し顔が青白い。

ヴィナス　なにもううるさいって誰これ。
田中　うわもう一人出た。

メルクス左のドアから現れる。

メルクス　なにうるさいっていうか誰これ。
田中　更に出た。
サトゥルス　落ち着けって。
田中　誰誰誰誰誰なにこれ誰。
メルクス　もしかして転送装置使ったの。
サトゥルス　うん。
メルクス　勝手に使わないでよ消費エネルギー結構あるんだから。
サトゥルス　でもここじゃ調査進まないしヴィナスも外に出たがらないから誰か呼ぶしかないだろ。
ヴィナス　誘拐はまずいって。
サトゥルス　後で記憶消せば問題無いだろ。
田中　なんだか勝手に話が進んでいるけどここどこなに誰部屋暑いなおい。
ヴィナス　あのすいませんちょっとしたドッキリみたいな。
田中　ああドッキリか。
サトゥルス　信じるなよドッキリの訳ないだろ。
田中　ああドッキリじゃないんだ。
ヴィナス　ドッキリですドッキリ巧妙な。
田中　そうか巧妙なドッキリなんだ。
サトゥルス　そこの窓から外見てみなよ。
田中　わあ宇宙だよおい。
サトゥルス　ここは宇宙船で俺たちはウラヌス星人。
田中　なんだそのやる気の無い名前は。
サトゥルス　そんなこと言われても。

メルクス　あなた宇宙人に誘拐されたの。
ヴィナス　ああもういいや。
田中　そういえば歩いていたら突然上から光が来て。
ヴィナス　早く帰してあげなよ。
サトゥルス　連れて来ちゃったんだからちょっとくらい情報収集すればいいじゃん。
メルクス　まあ確かにもう連れて来ちゃってるし。
田中　じゃあ人類初めて宇宙人とコンタクトした人間なのかぼく。
メルクス　そんなこと無いと思うよ。
サトゥルス　地球に来たの俺たちが最初じゃないから。
田中　そうなの。
サトゥルス　地球で未確認飛行物体が度々目撃されてるんだろ。
田中　まあ確かに。
サトゥルス　たまに物好きが観光に来たりしてるらしいし。
田中　あああれ観光なんだ。
メルクス　直接的に接触するほど文明も発達していないし、特に目新しいのも無いから物好きくらいしか寄らないけどね。
田中　というかそもそもあんたら人間と全く同じじゃん服装がちょっとシルバーなだけで。
サトゥルス　それはあれだヴィナス。
ヴィナス　ちゃんと調べましたよ。
サトゥルス　じゃあ説明してあげなよ。
ヴィナス　とりあえずあなたの名前はなに。
田中　田中。
ヴィナス　じゃあ田中さんねというかなんで言葉通じるの。
メルクス　さっき言語設定しておいた。
ヴィナス　ああそうありがとうそれで田中さん。
田中　はあ。
ヴィナス　わたしがヴィナスでこいつがサトゥルスそれでこの子がメルクス。
田中　はあどうも。

ヴィナス　わたしたちウラヌスって星から来て地球の調査をしているんですけどこのサトゥルスというのがちょっと調子こいて田中さん誘拐してしまったみたいなのね。

田中　犯罪じゃないですか。

ヴィナス　まあそうなんですけどせっかく誘拐したのでちょっとお話聞かせて貰っていいですか。

田中　危害加えるとかじゃなければ別にいいですけどなんで地球人と見た目同じなんですか服装がちょっとシルバーですけど。

ヴィナス　実は地球人は３０万年前にウラヌス星人によって作られたんです。

田中　そんな馬鹿な。

ヴィナス　その時にウラヌス星人のＤＮＡを土台に地球人を作ったらしいのよ。

田中　ああそうなんだ。

メルクス　意外と飲み込みが早いね。

サトゥルス　かなり利口かかなり馬鹿なんだなたぶん。

ヴィナス　だから姿形が同じなんですわたしもさっき知ったんですけど。

サトゥルス　別に少し話をするだけだし終わったらちゃんと帰すから。

田中　まあならいいけど。

サトゥルス　とりあえずこれだけ最初に教えて。

サトゥルス、田中に映像を見せる。

田中　野球じゃん。

メルクス　なにこれ。

サトゥルス　ボールを投げて棒で打つまでは分かるんだけどなんで突然走り出すの。

田中　そんなこと言われても。

サトゥルス　この氷の上に重り滑らすのはなんで。

メルクス　なんでこの人たち裸で押し合ってるの。

サトゥルス　なんで手を使わないの。

田中　ああもううるさいな知らないよそんなの。

メルクス　知らないの？
田中　あんたたちの星にだって変なスポーツくらいあるでしょ。
サトゥルス　無いけどな。
田中　そっちでなにか有名なスポーツとか無いの。
メルクス　ホゲミユンかな。
サトゥルス　あれは格闘技だけどね。
田中　どんな格闘技なんだよ。
ヴィナス　と言うかね。
サトゥルス　なんだよ急に。
ヴィナス　この星の人たちって危機意識が薄すぎない。
メルクス　なんでちょっと怒ってるの。
ヴィナス　見てよこの映像。

ヴィナス、サトゥルスとメルクスに映像を見せる。
そこには自然災害で破壊されつくした町の光景がある。

サトゥルス　ああこれ俺さっき地球に降りた時に少しみた。
メルクス　町がめちゃくちゃね。
サトゥルス　地震とか津波だよなこれ。
ヴィナス　それなりに文化の発達した星だと思ってたんだけどなんなのこの惨状。
田中　なんで怒られてるのぼく。
ヴィナス　自然災害を事前に予知するような手段も無い訳。
田中　ありますよ。
ヴィナス　じゃあなんでこんなことになっているの。
田中　地震の数分前に警戒情報が届くだけだし。
ヴィナス　そんなの意味ないでしょ。
田中　なんで怒っているのか分からないけど無いよりマシでしょ。
ヴィナス　そうだけど。
サトゥルス　なんで怒ってるんだよ。

ヴィナス　あんまりにあんまりだからさっきこの星で災害の予知をしてみたの。
メルクス　また勝手に。
ヴィナス　いいでしょ。そしたらいくつか大きな地震が発生する地域が出てきた。
サトゥルス　いつ。
ヴィナス　明日。
メルクス　じゃあすぐ逃げないと。
ヴィナス　でも彼らにはそれを知る手段が無いでしょ。
サトゥルス　田中に伝えて貰ったら。
田中　無理無理無理誰も信じてくれないって。
メルクス　だよね。

沈黙。

ヴィナス　このままにしておいたらかなり犠牲者が出るのは間違いないの。
サトゥルス　もしかしてお前助けるつもりか。
メルクス　駄目だよそれは。
ヴィナス　なんで。
サトゥルス　それはいくらなんでも干渉し過ぎだって。
ヴィナス　あんたが言うな。
メルクス　やばいよそれは。
ヴィナス　でもこのままだと。
田中　ちょっと待って待ってこのまま見殺しにする気か。
サトゥルス　よその星の者が干渉しちゃいけないんだよ。
田中　法律的な？
メルクス　まあそうね。
田中　じゃあ見殺しにするのか分かってて。
ヴィナス　なんか良い方法ないかな。
サトゥルス　とにかく干渉するな。
ヴィナス　直接的な干渉をしなければいいんでしょ。なんか良い方法ないかな。

メルクス　なんか端末的なもの持ってないかな。
田中　端末。携帯ならあるけど。
メルクス　そこにメッセージを送るくらいなら出来るかも。
ヴィナス　それそれそれにしよう。
サトゥルス　それもちょっとまずいんじゃ。
ヴィナス　地球人誘拐しといてなに言ってるの。
サトゥルス　そうだけど。
ヴィナス　メルクスお願い。
メルクス　んーいいのかな。
ヴィナス　見殺しに出来ないでしょ。
田中　そうだそうだ。
ヴィナス　その端末少し貸して貰っていい。
田中　ああはいどうぞ。

メルクス、携帯を受け取ると左のドアに入る。

サトゥルス　本当にやるのか。
ヴィナス　死ぬのが分かってて見殺しに出来ないでしょ。
サトゥルス　まあそうだけど。
ヴィナス　どのくらいで出来そう？
メルクス　1時間頂戴。
サトゥルス　そうか。それまでどうしよう。
田中　なら逆にそっちのこと教えてよ。
サトゥルス　別にいいけどあとで記憶消すよ。
田中　怖いなおい。
サトゥルス　大丈夫だよ安全だから。
田中　ならとりあえず聞くだけ聞いとく。
サトゥルス　どんなこと知りたいんだよ。
田中　ええとじゃあ宇宙人って音楽とか聞くの。

ヴィナス　なんか地球人がたくさん死ぬかもしれないのにやけに落ち着いてるよね。
田中　ここにいるとあんま実感無いし。遠い世界の話のようで。
ヴィナス　まあ実際遠いしね。
田中　それで音楽は聞くの。
ヴィナス　聞くよ。
田中　ならなんか聞かせてよ。
サトゥルス　突然言われても困るよな。
ヴィナス　そうだよね。
サトゥルス　どんなのがいいんだろう。
ヴィナス　んーこれとかどう。
サトゥルス　ああいいんじゃない。

ヴィナスがスイッチを押すと歌が流れてくる。

田中　へえ良い曲だね。
サトゥルス　悪い気はしないね。
田中　なんか地球と言語とか音楽性が似てるね。
ヴィナス　元々同じ人種だから。
田中　ああそうか。

メルクスが戻ってくる。

メルクス　これで送れるはず。
ヴィナス　ここで打ち込めばいいの。
メルクス　うん。

ヴィナス、ディスプレイの前のキーボードでメッセージを打ち始める。

サトゥルス　いいのか本当に。

ヴィナス　もううるさい。
メルクス　んー。
サトゥルス　捕まるぞこれ。
メルクス　だよね。
ヴィナス　出来た。

ヴィナス、メッセージを送信する。

メルクス　ああやっちゃった。
ヴィナス　送れるようにしたのあなたでしょ。
メルクス　そうだけど。
サトゥルス　俺は止めたからな。
ヴィナス　ああそういうのずるい。
田中　それでぼくはどうすれば。
サトゥルス　ああ忘れてた。
田中　酷いなおい。
ヴィナス　すぐ帰してあげます。
メルクス　ああでも記憶は消させてね。
田中　やっぱりか。
サトゥルス　でも色々助かったよ。
メルクス　じゃあ一緒に来て貰っていい。
田中　はあ。

メルクスと田中、中央右のドアに入っていく。

サトゥルス　本当にこれで良かったのかお前。
ヴィナス　もうやってしまったものは仕方ないでしょ。
サトゥルス　俺たち地球に物凄く関与したぞ。
ヴィナス　……。

サトゥルス、右のドアに入っていく。
ヴィナス、窓の外にある地球を見つめる。

地球の携帯が一斉に鳴る音が聞こえてくる。

ヴィナス、窓の外を見つめてぼーっとしている。
サトゥルス、右のドアから入って来る。

サトゥルス　おい研究はどうした。
ヴィナス　……。
サトゥルス　ヴィナス。……ヴィナス。
ヴィナス　ああはいはいなに。
サトゥルス　研究は。
ヴィナス　うん頑張る。
サトゥルス　お前の決意じゃなくて状況の話。
ヴィナス　いやだから頑張る状況。
サトゥルス　まあうん今ので大体状況分かった。

沈黙。

サトゥルス　お前またやっただろ。
ヴィナス　……。
サトゥルス　お前。
ヴィナス　なに。
サトゥルス　また地球人にメッセージ送っただろ。
ヴィナス　……。
サトゥルス　なあ。
ヴィナス　うん。

サトゥルス　また地震か。
ヴィナス　津波も。
サトゥルス　気持ちは分かるけどこれ以上干渉するな。
ヴィナス　でも
サトゥルス　本来死ぬべき者を助けてしまうと彼ら周辺の運命まで変わってしまうんだよ。
ヴィナス　分かってるわよ
サトゥルス　分かってないよお前いま地球の生態系まで関与し始めてるって分かってるのか。
ヴィナス　分かってるって
サトゥルス　分かってない。
ヴィナス　じゃあどうしたらいいのよ。
サトゥルス　地球のことは地球人で解決すべきなんだよ。自然災害もこの星にとっては自浄作用のひとつかもしれないだろ。地球人を助けることで地球上の他の生物が死に絶えるかもしれない。人に偏った生態系が地球の生態ピラミッドをおかしくしてしまうかもしれない。
ヴィナス　だって目の前で人が死ぬのよ。
サトゥルス　なら見るなよ。
ヴィナス　出来ないわよそんなの。
サトゥルス　目を背けるだけだろ。
ヴィナス　背けたって感じるでしょ。
サトゥルス　神にでもなったつもりかお前は。
ヴィナス　そんなつもりはないけどこれが神の所行だと言うならそれでいいよ。
サトゥルス　地球の神はどうする。
ヴィナス　そもそもこの星に神はいるのかしらね。

沈黙。

サトゥルス　俺、しばらく地球に降りて実際にこの目で色々見て来るよちょっと興味が出て来たし。
ヴィナス　そう。

サトゥルス　俺がどこにいるかすぐ分かるようにしておくから。
ヴィナス　うん。
サトゥルス　メルクス。

サトゥルス、左のドアに入り、すぐメルクスを伴って現れる。

メルクス　また行くの。
サトゥルス　大丈夫だって無茶しないから。
メルクス　ぶつけたりしないでね。
サトゥルス　分かってるってば。

サトゥルス、上手より出て行く。

メルクス　またサトゥルスと喧嘩したの。
ヴィナス　違うよ。
メルクス　わたしは両方の言いたいことは理解出来るよこういう立場が一番ずるいんだけど。
ヴィナス　わたしだって分かってるよ。
メルクス　わたしは半ば騙されて連れてこられた訳だけどサトゥルスは違うんでしょ。
ヴィナス　うん。
メルクス　彼の気持ちもう少し考えてあげてもいいと思うよ。
ヴィナス　そうだね。
メルクス　んでこれからどうするの。
ヴィナス　課題やらないと。
メルクス　そうだね。
ヴィナス　うん。
メルクス　あのねわたし早く帰って録画した番組観ないといけないから。
ヴィナス　義務みたいに言わないでよ。
メルクス　義務ですよわたしにとっちゃ。

ヴィナス　じゃあ前向きに善処します。

メルクス　あとどうもまだ空調の調子悪いから。

ヴィナス　なんか変な音がするね。

メルクス　あんまり船に負担が掛かることしないでね。

ヴィナス　うん。

メルクス左の部屋に入る。

ヴィナス、テーブルについてディスプレイを見ると、地球上の様々なニュース音声が聞こえてくる。

キャスター　世界中で話題の謎のメッセージについて一部には宇宙人や神が送信しているという噂もありますが結局誰にもその発信元が見つけられない状態です。ただこのメッセージが予測する自然災害の的中率が９０％以上ということで日増しに発信元への興味は増してきている状況です。我々はこの発信元に対してただ一言お礼を言いたいのです。ありがとうと。もしどこかでこれを聞いているのであればコンタクトをして頂けるとわたしたちはとても嬉しく思います。いつでもわたしたちはあなたからの

ヴィナス、スイッチを切る。

ヴィナス　どうしたらいいんだろ。

ヴィナス、宙を見ている。

地球の携帯が一斉に鳴る音が聞こえてくる。

メルクス、左の部屋から出て来る。

メルクス　ヴィナスっ。

ヴィナス　なにびっくりした。
メルクス　あなたいくらなんでもそこまでしなくても。
ヴィナス　ええなにが。
メルクス　それは駄目だって。
ヴィナス　ええ本当に分かんないだけど。
メルクス　またメッセージ送ったでしょ。
ヴィナス　いやまあ何度か送っちゃいましたけど最近はもう。
メルクス　さっき地球のニュース見てびっくりしたんだから。
ヴィナス　えええ。
メルクス　それは地球人を助ける為に送るはずだったでしょ。
ヴィナス　そう。そうだよ。
メルクス　あなた本当に神になったつもりでいるの。
ヴィナス　違う違う違うそんなんじゃないって。
メルクス　じゃあここ数日のメッセージはなんなの。
ヴィナス　ええなにについて怒られているのか。
メルクス　地球混乱してるよ。
ヴィナス　そうなの。
メルクス　あなた本当に分かってないの。
ヴィナス　ちょっと落ち着いてどういうことか説明してよ。
メルクス　生贄って。
ヴィナス　なに。
メルクス　あなたが送ったメッセージ。『人類を救いたくば生贄として名乗り出よ。神より』。
ヴィナス　なにそのファンタジーな文章。
メルクス　あなたじゃないの。
ヴィナス　そこまで頭悪くないよわたし。
メルクス　まあそれはそうかもね。
ヴィナス　それでどうなったの。
メルクス　なんかそれでどうも自殺志願者がたくさん集まっちゃったらしくてね。

ヴィナス　うん。
メルクス　誰が生贄になるかジャンケン大会が始まって。
ヴィナス　うん。
メルクス　なんか凄く盛り上がったらしいんだけど。
ヴィナス　そうなんだ。
メルクス　そしたらまたメッセージ来て『死にたがりばかりじゃ意味が無いので生きたがっている者を連れて来ようね。神より』と。
ヴィナス　ほう。
メルクス　それで始まったのが充実した生活をしているものを狩る通称『リア充狩り』。
ヴィナス　うわなんか凄いことになってるね。
メルクス　とんでもないよ。
ヴィナス　サトゥルス大丈夫かな。
メルクス　まあ彼はたぶん大丈夫だと思うけど本当にあなたじゃないのね。
ヴィナス　うん。

サトゥルス上手から現れる。

サトゥルス　おいっ。
ヴィナス　おう噂をすれば。
サトゥルス　お前らなにやってんだよ。
メルクス　『リア充狩り』？
サトゥルス　なに言ってんだそんなことより遂にやりやがったな。
ヴィナス　今度はなに。
サトゥルス　お前遂に一線超えたな。
ヴィナス　なにそれ。
サトゥルス　しらばっくれるなよ俺も巻き込まれる所だったぞ。
ヴィナス　とりあえず落ち着いて。
メルクス　なんだか良く分からないけど状況教えて。
サトゥルス　ええとあれだいつも通り災害メッセージが届いて避難場所に行ったらそこで災

害が発生したんだよ。

ヴィナス　酷いなにそれ。

サトゥルス　いやいやお前だろ。

ヴィナス　違う違う違う。

サトゥルス　なんでそんなことするんだよ。

ヴィナス　だから違うって。

メルクス　そんなことする意味が分からないし。

サトゥルス　まあそれはそうだけど。

ヴィナス　わたしを真似たいたずらかな。

サトゥルス　いたずらにしてはやり過ぎだろ。

メルクス　確かに各地で小規模ないたずらはあったみたいだけどここまで出来るのはちょっと。

ヴィナス　どうしよう。

メルクス　地球人の端末をもう一度調べればなにか分かるかも。

サトゥルス　ああそうかじゃあちょっと待って。

メルクス　待って待ってまた転送装置使う気じゃないでしょうね。

サトゥルス　そうだけど。

メルクス　また船に負担が。

ヴィナス　そんなこと言ってる場合じゃないでしょ。

メルクス　あと小型船は大丈夫なの。

サトゥルス　たぶん。

メルクス　たぶんってなに。

サトゥルス　何度かぶつけたから。

サトゥルス、中央右のドアに入る。

メルクス　なにか事故が起こったらどうするのよ。

サトゥルス現れる。

サトゥルス　よしセッティング出来た。
メルクス　勝手なことしないでよ。
サトゥルス　だって端末確認したいんだろ。
メルクス　ああもう。

中央右のドアから田中が現れる。

田中　ええなにななにここどこ。
サトゥルス　あれ。
田中　うわ誰ここどこあなた誰。
サトゥルス　またお前か。
田中　またってなにうわなに怖いここどこ。
ヴィナス　田中さんだ。
田中　なんで名前知ってるのなにうわ怖い。
メルクス　わざとでしょ。
サトゥルス　違うよ。
ヴィナス　とりあえず以前の記憶戻してあげたら。
メルクス　ああその方が早いわねちょっとじっとしててね。
田中　ええなんですかキャトルミューティレーションですか。あああああ。

田中の頭に器具を近づけるメルクス。

ヴィナス　運が悪いね田中さん。
サトゥルス　本当に。
田中　あ。ああ宇宙人の皆さん。
メルクス　良かった無事思い出したみたい。
サトゥルス　度々悪いね。
田中　また誘拐されたんですかぼく。

ヴィナス　わざとじゃないんだけどね。
田中　今度はなんですかもう。
メルクス　ちょっと携帯貸して貰っていいかな。
田中　またですか。

携帯を渡す田中。

メルクス　すぐ返すからね。

携帯をいじりだすメルクス。

田中　そういえば最近変なメッセージばかり送ってるよね。
ヴィナス　違うわたしじゃないって。
メルクス　んーこれは。
サトゥルス　なんだよ。
メルクス　どうも違う神様が現れたみたいね。
ヴィナス　違う神様。
メルクス　どうもわたしたち以外に地球外からメッセージ送ってる人がいるみたい。
サトゥルス　まあそう考えるしかないな。
ヴィナス　理由は分からないけどとりあえず変なメッセージ信じちゃ駄目だって言っておかないと。
サトゥルス　その必要は無いよ。
ヴィナス　なんで。
サトゥルス　もう誰もお前のメッセージなんか信用しないよあんなことがあったんじゃ。
ヴィナス　そうだね。
メルクス　これからどうしよう。

突然館内に声が響き渡る。

ユピテル　そこの船どこの星から来た。
ヴィナス　ええなになに。
田中　また違うのが現れた。
メルクス　どこかの船から繋げてるっぽい。
サトゥルス　あああれじゃないか。

窓の外に宇宙船が浮かんでいる。

メルクス　ちょっと待ってこちらも繋げる。

メルクス窓の前にあるコントロールパネルをいじる。

メルクス　すいませんあなた方は誰ですか。
ユピテル　まずはこちらの質問に答えろ。
メルクス　どうしよう。
サトゥルス　正直に答えた方がいいんじゃないかな。
メルクス　わたしたちはウラヌス星からやって来ました。
ユピテル　同じ星の人間か。
メルクス　そちらもウラヌス星から。
ユピテル　なにしにここに来た。
メルクス　えっと
サトゥルス　観光です。
ユピテル　しばらく前から地球人に変なメッセージを送っていたのは君達か。
メルクス　いやあのその
ユピテル　今からそちらに行くのでドッキングの準備をしなさい。
ヴィナス　ええどうしよう。
サトゥルス　逃げるか。
メルクス　いやたぶんあの船だとすぐ追い付かれると思う。
ヴィナス　とりあえず大人しく聞いた方が良さそう。

サトゥルス　メルクス。
メルクス　はいはい。この船の後ろ側に付けてください。
ユピテル　了解。

しばらくすると船がガクンと振動する。

メルクス　ああもう乱暴な。
サトゥルス　おおお。
メルクス　ちょっと見て来る。

メルクス上手に消える。

ヴィナス　もしかしてなんか怒られるのかな。
サトゥルス　だから止めておけつったじゃん。
ヴィナス　だって。
田中　あのぼくどうすれば。
ヴィナス　とりあえず当り前みたいな顔していれば大丈夫だと思う。
サトゥルス　見た目はほぼ同じだし。
田中　そういうことじゃなくて。

メルクス、ユピテルとプルトを伴って上手から現れる。

メルクス　それでなんなんですか。
ユピテル　結構古い船だな。
メルクス　すいませんね。
プルト　失礼します。
ユピテル　それであのメッセージは誰が送った。

沈黙。

ユピテル　なんのことを言っているのかは分かるな。

沈黙。

ユピテル　調べればすぐ分かるぞ。

ヴィナス　……あのすいませんわたしが。

ユピテル　お前か。

ヴィナス　ごごごごめんなさいでもあのままだと

ユピテル　言い訳はいい。

ヴィナス　はいすいません。

サトゥルス　いやでも色々訳が

プルト　その辺はなんとなく分かってますから。

サトゥルス　ああそうですか。

メルクス　すいませんわたし船の様子見てきます。

メルクス中央右のドアに入る。

サトゥルス　なんだよ捕まえに来たのかよ。

プルト　ああ違います違います。

ヴィナス　ええじゃあなに。

ユピテル　なんでここにいる。

サトゥルス　やぶからぼうになんだよ。

ユピテル　質問に答えろ。

ヴィナス　学校の課題です。

プルト　課題。

ヴィナス　論文書かないといけなくて地球人の生態でも調べようかと。

プルト　わざわざこんな所まで。

ヴィナス　ああはい。

プルト　なんでここ？
ヴィナス　あんまり他の人来ないしいいかなと。
プルト　へえ。
サトゥルス　そういうあんたらはなにしに来たんだよ。
プルト　わたしたちはお仕事です。
ヴィナス　仕事。
プルト　はい。
サトゥルス　仕事ってどんな。
プルト　この星の調査です。
ヴィナス　じゃあわたしたちと同じじゃないですか。
ユピテル　一緒にするな。
サトゥルス　いやいやいやいや。
プルト　その調査結果次第で地球が消えるかどうかが決まるんですよ。
田中　消えるってなんで。
ユピテル　邪魔だから。
田中　邪魔って。
プルト　いや目障りとかそういう意味では無く通行上邪魔なんです。
ヴィナス　通行。
ユピテル　ウラヌスの資源問題については知ってるな。
ヴィナス　いやまあ連日聞かされていますから。
ユピテル　いま我々は資源のある星を見つけウラヌスまでのパイプラインを作ることが急務となっている。
サトゥルス　それでこの地球を。
プルト　いやこの星の資源は既に枯れ始めているので問題外です。
サトゥルス　じゃあなんだよ。
プルト　少し前に資源が豊富な星が見つかりまして。
サトゥルス　はあ。
プルト　それがちょうどこの先なんです。
ヴィナス　先。

ユピテル　ようするにウラヌスとその星の軌道上に地球が存在する訳だ。
サトゥルス　ああ資源を運ぶのに通行の邪魔だと。
ユピテル　そう。
田中　じゃあ地球を壊すのか。
ユピテル　まあそういうことになる。
田中　そんなことしていい訳ないだろう。
ユピテル　言ってる意味が分からないな。
田中　宇宙人は平気でよその星の人を殺せるのか。
ユピテル　例えばだ。
田中　おう。
ユピテル　君が家を建てたいと思う。必死でお金を溜めて土地を買って専門家に家を建てて貰う。
田中　はあ。
ユピテル　でもその土地に虫の巣があったとする。君ならどうする。
田中　どうするって。
ユピテル　そんなこと知ったことじゃないだろう建てるだろ家。
田中　話が極端過ぎる。
ユピテル　同じことだよ。
田中　てことは地球人は虫と同じってことか。
ユピテル　我々から見れば。
田中　なんだよこいつ皆もそう思ってんのか。
ヴィナス　いやいやそんなことない。
サトゥルス　思ってないよ。
田中　そんな簡単に地球壊されてたまるか。
プルト　それがね。そう簡単には壊せないのね。
ユピテル　そう。
田中　はあ？
ユピテル　宇宙連盟にあるルールがネックでね。
プルト　『一定以上の文明、知能を有する星を破壊してはならない』。

田中　じゃあ無理じゃないですか破壊。
ユピテル　どうして。
田中　地球って結構文明発達しているじゃないですか。
ユピテル　そんな訳ないだろう。
田中　そうなんですか。
ヴィナス　確かに文明が凄いかというと微妙かもしれない。
田中　いやでも最近は宇宙にも進出してるし。
ヴィナス　でも失敗ばかりしてるんでしょ。宇宙に出るだけでそんなに苦労してるって信じられないとは思う。
田中　そうなの。
プルト　まあでもとにかく実際に星ひとつ破壊する訳ですから念の為調査してからと。
田中　んー。
ユピテル　それでだ。最近変なメッセージを地球に送っている連中がいると分かった。
ヴィナス　そうして今に至る。
プルト　そう。
サトゥルス　じゃあここ数日の変なメッセージは。
ヴィナス　そうそうそれそれ。
ユピテル　変なメッセージ。
ヴィナス　『生贄がどうたら』みたいな。
プルト　それもあなたたちでしょう。
ヴィナス　いやいやいや違いますよ。
プルト　じゃあ誰が

メルクス、ドアを開けて顔を出す。

メルクス　あのごめんなさいどちらか機械に詳しい方いますか。
サトゥルス　なにどうした。
メルクス　ちょっとまずいかも。

突然船がガクンと傾く。

ヴィナス　うわちょっと。
サトゥルス　なんだよこれ。
メルクス　すいませんちょっと見て頂けませんか。
ユピテル　よし分かった。

ユピテル、メルクスと中央右のドアに入る。

ヴィナス　大丈夫なのかな。
サトゥルス　ちょっと落ち着いたっぽいから大丈夫だろ。
田中　宇宙で死にたくないんだけど。
プルト　ごめんなさいね。
ヴィナス　なんですか突然。
プルト　口が悪くてあの人。
サトゥルス　まあ確かにちょっと感じは悪いかな。
ヴィナス　サトゥルス。
プルト　根は優しい人なんです。
ヴィナス　ふうん。
プルト　優し過ぎて……。
サトゥルス　本当かよ。
プルト　パイプラインの受注は我が社の生命線なので。
サトゥルス　ふうん。
田中　ふうんて。
プルト　あの人少し前に受注に失敗しちゃって会社に大ダメージ与えちゃったのね。前はあんなにギスギスして無かったんだけど。
田中　なんかそんな話聞くと地球とあんまり変わらない気がするけど。
プルト　どんな文明だって生命がいる以上は壊しちゃ駄目だとは思うんだけど。
田中　じゃあやめてくださいよ。

プルト　さっき言った受注の時もこんな感じで調査してたんだけどどうするか迷ってる隙に他社にかすめ取られちゃって。

田中　そんなので殺される方の身にもなってくださいよ。

プルト　さっきからなんなのあなたもしかして地球人。

田中　そうですとも。

プルト　なんでこんな所に。

田中　ぼくが知りたいですよ。

サトゥルス　調査の足しになればと。

プルト　そんなことしたら捕まるわよ。

サトゥルス　いやまあそうなんですけど。

田中　２回も誘拐とかふざけるなよ。

サトゥルス　別にあなたを狙って攫った訳じゃないんだけど。

田中　７０億いる地球人から同じ人物を２度も偶然攫える訳ないだろう。

サトゥルス　それはそう思うんだけど。

田中　帰せよ地球に。

サトゥルス　いやそれはうん。

田中　早く帰せよ。

突然船が揺れ出す。

ヴィナス　うわまた。

サトゥルス　今度はちょっとやばいかも。

ユピテルが勢い良く中央右ドアから現れる。

ユピテル　プルト戻るぞ。

プルト　どうしたんですか。

ユピテル　この船は落ちる。

サトゥルス　えええ。

更に船が揺れる。

ユピテル　ああもう間に合わない全員なにかに捕まれ。

田中　帰せって言ったけどこんな帰し方じゃなくて。

ユピテル　黙れ舌を噛むぞ。

ヴィナス　なにななななななに。

地球に落ちて行く船。

長い沈黙。

歌が聞こえてくる。

部屋にはサトゥルスとプルトがいる。

プルト　あなたほんとこの曲好きね。

プルトがスイッチを押して音楽が止めると、風の音や川の音が聞こえてくる。

サトゥルス　何日目だもう。

プルト　１０日くらいは経ったでしょうね。

サトゥルス　船もこんなだしあまり長いことここに居られないぞ。

プルト　町中に落ちなかっただけでも儲け物と思わないと。かと言ってこんな山の中もどうかと思うけど。

サトゥルス　災難ですよねあなたたちも。

プルト　まあねえ。

サトゥルス　そういえばユピテルさんとはどういう関係なんですか。

プルト　なんなの薮から棒に。

サトゥルス　仕事とはいえ男女二人でこんな遠くまで来るなんて。

プルト　わたしは仕事に私情は挟みません。
サトゥルス　本当に？
プルト　そのうち分かるわよ。
サトゥルス　どういう意味ですか。
プルト　そういうあなたはどうなのよ。
サトゥルス　はい？
プルト　ヴィナスさん可愛いじゃないの。
サトゥルス　それこそ私情は挟みませんよ。
プルト　仕事でもなんでもないでしょあなたたちは。
サトゥルス　（無視して）メルクスご飯あるか。おいメルクスよ。
プルト　自分から振っておいて。

左の部屋からメルクスが現れる。

メルクス　ご飯なんて無いわよもう今ヴィナスとユピテルさんが探しに行ってるでしょ。
サトゥルス　大体なんで船が落ちるんだよ。
メルクス　散々説明したでしょ元々調子悪い船で色々するからあなたたちが。
サトゥルス　どうすんだよこれから。
メルクス　だからユピテルさんたちの船がまだ上に残ってるからそこまで行ければ。
サトゥルス　でも燃料タンクが壊れた上に小型船も使えないんだろ。
メルクス　小型船はあんたが地球で散々ぶつけまくったからでしょうが。
サトゥルス　なんか全部俺が悪いみたいじゃないか。
メルクス　みたいじゃなくてそうなの。
プルト　もうやめてやめてその会話もう何度も聞いたから。
メルクス　そもそもあのドッキングの衝撃のせいで。わたし家に録画した番組がたくさんあるんですよそれ
プルト　ああこっちに矛先来た。
サトゥルス　タンクはもう直ったのか。
メルクス　大体ね。

サトゥルス　じゃあ船の燃料さえ確保すれば戻れるんだな。
メルクス　そうよ。
サトゥルス　確か地球で言う所の『ういろう』っていうのがあればいいんだろ。
メルクス　そうそうそれが船の燃料と一番成分が近いから。
サトゥルス　どのくらいあればいいんだよ。
メルクス　1万個くらいかな。
田中　あのう誰か忘れていませんか。
サトゥルス　なんだよ田中。
田中　いつまでこんな所に縛りつけておくんだよ。
プルト　ごめんなさいね。
メルクス　本当なら記憶消してすぐ解放してあげたい所なんだけど墜落の衝撃で見事に機械が壊れました。
田中　それはもう分かったからいつまで監禁するつもりなんだよ。
サトゥルス　とりあえずういろうが1万個集まったらかな。
田中　いま地球上に1万個もういろう無い気がするけど。
メルクス　そんなに貴重なものなの。
田中　貴重ではないけど需要がそこまでというか。
サトゥルス　そもそもういろうってなんだよ。
田中　名古屋名物だよ。
メルクス　そういうことじゃなくて
サトゥルス　分類を言え分類を。
田中　お菓子だよ。
サトゥルス　お菓子かよ。
田中　いやもう帰せよ。
プルト　ごめんなさいね今あなた帰すとわたしたちが危険だから。
田中　どうして。
プルト　ここ数日のメッセージのせいでわたしたちたぶん地球人に嫌われているから。
サトゥルス　船が墜落するところが地球のニュースで流れてたし。
メルクス　たぶん今は流星かなにか程度の認識だろうけどもし宇宙人がいるってなったら

真っ先にこの周辺を捜索される。

田中　別に告げ口しないからさあ。

サトゥルス　駄目。

田中舌打ち。

プルト　確かにちょっと可哀想かもね。

田中　でしょう。

サトゥルス　駄目ですってすぐ同情しますねプルトさん。

プルト　あまりに理不尽だから。

メルクス　そうなんですけど田中さんを解放するとわたしたちの命が危険になるから。

プルト　んー。

ヴィナスとユピテルが上手から現れる。

ユピテル　そのくらいいいだろ面倒だな。

ヴィナス　駄目に決まってるじゃないですか。

サトゥルス　なんだよ帰るなり。

ヴィナス　ユピテルさん偽札で贅沢しようとするから。

ユピテル　ならお前が今手に持っているものはなんだ。

ヴィナス　食料ですけど。

ユピテル　それだって偽札で手に入れた物だろ。

ヴィナス　これは仕方無いじゃないですか。

ユピテル　知ってるかお前。

ヴィナス　なんですか。

ユピテル　地球人の寿命。

ヴィナス　え知らないです。

ユピテル　どのくらいだと思う。

ヴィナス　んー５００年くらいですか。

田中　５００て。
ヴィナス　違うの。
田中　そんなに生きれるか。
ヴィナス　じゃあどのくらいなのよ。
田中　７〜８０くらい。
メルクス　ええええ。
サトゥルス　マジか。
田中　ああはい。
ユピテル　環境が悪いんだよこの星は。
田中　じゃあじゃあ皆さんどのくらい生きるんですか。
ヴィナス　１０００年くらいかな。
田中　長っ。
サトゥルス　ヴィナスと知り合って１００年くらいだしな。
田中　長っ。長あっ。
ユピテル　同じＤＮＡを持ちながらどうしてここまで寿命が違うというとそれはもう環境の違いとしか説明しようが無い。身体に触れるもの口に含むものその全てがウラヌスよりも質が落ちる。だから少しでも良い状態のものを取らないと我々の身体に害を与えるかもしれない。
プルト　まあそれはそうなんですけど元々ウラヌスのＤＮＡをこちらに運びこんでいるんだから環境と合わなくても仕方ないじゃないですか。
ユピテル　まあそれはそうだ。でもだからと言って我々までここに合わせる必要は無い。
ヴィナス　じゃあとにかく宇宙に残した船に帰りましょうよ。
メルクス　なんでこんな目に遭わないといけないのよもう。
田中　神の真似事なんかするから罰が下ったんだよ。
ヴィナス　そんなことしてないから。
田中　してただろ。メッセージ送って地球人が右往左往する姿見て喜んでただろ。
サトゥルス　喜んでねえよ。
田中　自分たちがこの下等生物を生かしてやってるとか思ってたんだろ何様だよお前ら。

沈黙。

メルクス　わたし船の修理するから。

メルクス中央右のドアに入る。

ユピテル　確かにこいつらにそういう部分はあっただろうな。

ヴィナス　違います。

ユピテル　なにがどう違う。

ヴィナス　わたしは純粋に地球の人を助けたかっただけです。

ユピテル　ならば何故戦争を止めない。飢餓を止めない。悪を殺さない。

サトゥルス　ヒーローかよ。

ヴィナス　でもそこまでしたら本当に

ユピテル　本当に、なんだ。

ヴィナス　神の領域になってしまいます。

ユピテル　その境はどこにある。

ヴィナス　分かりませんそんなの。

サトゥルス　ヴィナスはヴィナスなりにこれ以上は駄目だってラインがあるんだよ。

ユピテル　でもそこの彼は「神になったつもりか」と言っている。

ヴィナス　じゃあなにもしなければ良かったんですか。

ユピテル　そうは言っていない。

サトゥルス　あんたはどの立場で話しているんだ。

ユピテル　どちらでも無い。

サトゥルス　ずるいな。

ユピテル　意思を持ってやれって話をしている。

サトゥルス　意思。

ユピテル　文明や力の差が圧倒的な場合それは神と赤子のような立場になることは往々にしてある。例えば小さな虫がいる。我々にとって彼らはどうにでも出来る存在。

無視も出来るし、ほんのちょっと時間を割けば巣を壊すことも、水害、火事、なんでも起こすことが出来る。もちろん殺すこともそしてどんな殺し方も出来る。我らからしたら暇つぶしかもしれない遊びかもしれないでも彼らから見たらそれは自分たちの絶対に手の及ばない巨大な力による制裁となる。何故こんな目にと思う間もなく殺される。

サトゥルス　なんだよ難しい話しやがって。

ユピテル　そしてウラヌスと地球はそのくらいの差があるということだ。

田中　なら自分たちはもう神だって言うのか。

ユピテル　ここではある意味。

ヴィナス　ユピテルさん。

プルト　少し言い過ぎかと。

ユピテル　わたしも以前は彼らに同情をしていた。だが力の無い生物は淘汰される。どちらにしてもこの星はウラヌスの事業の為に消される可能性が非常に高い。なら我々に同情している余地は無い。それでも助けたいなら何事にも動じない意思を持て。

ヴィナス　……。

田中　姿形も変わらない者たちをよくもまあ。

ユピテル　君達は発達に失敗したから仕方が無い。

田中　まだ途中なんだよ。

ユピテル　違う。我々は同じ時間があればもっと発達出来た。

田中　じゃあその神様はこれからどうするつもりだよ。

ユピテル　とりあえず自分の星に帰る。

田中　でも帰れないんだろ神の癖に。

サトゥルス　それはそうだね。

ヴィナス　準備出来次第田中さんも解放するからもう少し待って。

田中　分かったよ。

プルト　ごめんなさい。

ユピテル　とりあえずわたしは少し休ませて貰うよ。

サトゥルス　じゃあ俺も。

ユピテル下手に出て行く。
サトゥルス右のドアに入る。

田中　なんか神の概念が他の星にもあるのが不思議だな。
プルト　確かにそうね。
田中　そもそも神ってなんなんだ。
ヴィナス　ちょっと調べてみようか。

ヴィナスがキーボードを叩く。

ヴィナス　神の性質に関して、その唯一性を強調する場合一神教、多元性を強調する場合多神教、遍在性を強調する場合汎神論が生まれるとされる。ただし汎神論はしばしば一神教、多神教の双方に内包される。また、古代から現在まで神話的世界観の中で、神は超越的であると同時に人間のような意思を持つものとして捉えられてきたが、近代科学の発展と無神論者からの批判を受け、このような神理解を改めるべきという意見も現れている。世界的に見ると、神を信じている人は多く、神に基づいて自身の生活様式を整えている人、神とともに生きていると形容できるような人は多い。人知を超えた存在であると考えられることや、人間や動物のように社会や自然の内に一個体として存在していることは観察できないことから、神の存在を疑う者も多い。神の不在を信じる者は無神論者と呼ばれ、マルクス主義は無神論の立場に立つ。また、実存主義者の一部も無神論を主張する。また神が存在するかどうかは知りえないことであると考える者は不可知論者と呼ばれる。神がどのような存在であるかについての様々な考え方は、宗教や哲学などに見ることができる。
プルト　地球の神も中々複雑ね。
田中　これだけ文明が発達してても神に頼ることがあるのか。
ヴィナス　そりゃあるよ。ユピテルさんはああ言うけど本質的な差は無いと思う同じＤＮＡだし。ただ文明の発達具合が全く違うただそれだけ。

プルト　ウラヌスにだって宗教は存在するのよ。
田中　そうなんだ。
ヴィナス　いくら長生きだからって死ぬことには間違い無いしどれだけ文明が発達した所で死んだ後のことはわたしたちにだって分からないよ。
田中　あんなに偉そうに言うんだからあの世と交信くらい出来そうなんだけど。
プルト　そりゃ無理ね。
田中　じゃあ神に祈ったりもするのか。
ヴィナス　たぶん地球でも色々なお祈りがあると思うんだけどそれはウラヌスも同じ。
田中　へえ。
プルト　宗教詐欺だってある。
田中　なんかやっぱり地球と変わらないな。
ヴィナス　祖先は同じだしね。
田中　そっちの星の神様はなにをしてくれるの。
プルト　なにって言われても。
ヴィナス　別になにもしないよ。
田中　それも地球と同じか。
プルト　そもそも神様なんてそれぞれの中に存在するものだと思うよ。
田中　おおなんか凄いっぽい事言い出した。
プルト　自分の理解を超えることとか都合が良いこと悪いことそういうものを神を通すことで人は納得出来る。天国や地獄だって死んで無になるのが怖いからそういう世界を空想してるだけ。神様って所謂精神安定剤的なものだと思う。特に文明が発達していない時代にはその傾向が強くなる。
田中　ウラヌス人凄えな。
プルト　３００年くらい生きればそのくらい考えるようになるわよ。
ヴィナス　人情家だと思ったら意外とクールな人ね。
プルト　それとこれとは別。

下手からユピテルが現れる。

ユピテル　もう一度外出してくる。
プルト　どうしましたか。
ユピテル　どうも他社が地球の調査に来てるらしい。
プルト　本当ですか。
ユピテル　早く上に戻らないと。
ヴィナス　仕事取られちゃいますね。
ユピテル　それどころか我らごと地球壊される可能性だって。
田中　ええ。
ユピテル　早くういろうを手に入れないと。
ヴィナス　田中さん。
田中　はい。
ヴィナス　どこに行けばういろう手に入るの。
田中　とりあえず地元に行けばあると思うけど1万個もこの世に存在しているのかどうか。
ユピテル　とにかく行ってくる。
ヴィナス　わたしも行きます。
ユピテル　お前がいると面倒臭いな。
ヴィナス　そんなこと言ってる場合じゃないじゃないですか。
ユピテル　分かった分かったじゃあ行こう。

ヴィナスとユピテル上手に出て行く。
残される田中とプルト。
気まずい空気が流れる。

田中　ああしまった案内するって言えば良かった。
プルト　そうね。
田中　今から走れば追い付くかも。
プルト　駄目ですよ解放は出来ません。
田中　さっき可哀想って言ってくれたじゃないですか。

プルト　それとこれとは別。

田中　もうずっとここに縛り付けられていておしりが床ずれみたいになってるんです。

もし許されるのであれば至近距離で見て貰いたいくらいですよ。

プルト　至近距離で見る必要はないでしょ。

田中　それは個人的な趣味ではあるんですけどとにかく痛いんです。

プルト　駄目です。

田中　痛いんですって解放してくれればういろう探し手伝いますから嘘じゃないです

ああ痛い痛い痛い痛い痛い痛い。

プルト　ああもう。

上手に出て行くプルト。

田中　置いていかないで。

大きな溜め息を付く田中。

上手から現れるプルト。

田中　ああプルトさん。

プルト　はい。

プルト、ナイフを田中の足下に投げる。

田中　なんですかこれ。

プルト　解放はしてあげられないけどそのナイフをどう使うかは好きにして。

田中　ああありがとうございます。

プルト　そろそろわたしも行かないと。

田中　どこ行くんですかプルトさん。

プルト　田中さん。

田中　はい。

プルト　ういろうのことはもういいから家に帰った方がいいよ。

プルト、上手に出て行く。

田中、ナイフを使って縄を切り、慌てて逃げる。

しばらく沈黙が続く。

ヴィナスとユピテルが上手から現れる。

ヴィナス　ただいま。

ユピテル　あれ田中はどうした。

サトゥルスとメルクスが上手から現れる。

サトゥルス　おお戻ってたのか。

ヴィナス　田中さんは。

サトゥルス　それが逃げたっぽい。

ヴィナス　縛られたまま？

サトゥルス　それが縄を切って逃げたらしい。

ユピテル　プルトはどうした。

メルクス　プルトさんも行方不明なんです。

ユピテル　田中に連れ去られたか。

メルクス　そんなバイタリティ溢れる人間には見えなかったけど。

サトゥルス　そういえばういろうは。

ヴィナス　集めるには集めたけど。

メルクス　どのくらい。

ユピテル　まだ3分の2くらい。

メルクス　それじゃあちょっと厳しいかな。

ヴィナス　あちこち集めまくったからこれ以上見つかるか分からない。

サトゥルス　あああもううまくいかないな。

船内にプルトの声が響き渡る。

プルト　あーあー皆さん聞こえますか。
ヴィナス　あれこれ。
メルクス　プルトさんじゃないですか。
プルト　皆さん聞こえますか。
ユピテル　ちょっと繋いでくれ。
メルクス　はいはい分かってますよ。

メルクス、船内のパネルをいじる。

メルクス　プルトさんですか。
プルト　ああ繋がった良かった。
メルクス　どこにいるんですかプルトさん。
プルト　今はあなたたちの上空。
ヴィナス　空？
プルト　違う違う宇宙。
サトゥルス　ええなんで。
プルト　仲間に拾って貰って。
ユピテル　仲間ってなんだ。
プルト　ネプトス社の方々です。
ユピテル　は？
プルト　ネプトスです。
ユピテル　ネプトス。
プルト　はい。
ユピテル　なんでネプトスが。
プルト　分からないはずないじゃないですか。

ユピテル　まさかお前裏切ったのか。
プルト　ヘッドハンティングです。
ユピテル　変わらないだろ。
サトゥルス　なんだよなんの話だよ。
ヴィナス　わたしも分からない。
プルト　わたしだってずっと今の会社に居たかったんですけど優しすぎるんですよあなたは。
ユピテル　優しいって。
プルト　決断するのが怖いのは分かります。でもあなたが判断しないで誰が判断するんですか。強気なのは言葉ばかりで結局学生なんかに構って先延ばしに。だからこうしてまたネプトス社に仕事取られてしまうんです。
ユピテル　いつからだ。
プルト　はい？
ユピテル　いつからネプトス社に。
プルト　この仕事に付く直前です。
ユピテル　ならなんで来る前に。
プルト　分かりますよね言わなくてもそんなこと。
ユピテル　……。
ヴィナス　じゃあ、じゃあ地球におかしなメッセージ送ってたのはプルトさん達ですか。
プルト　違うわよ。
ヴィナス　なら結局誰なんですか。
プルト　知らないわよ。
サトゥルス　あんたたち以外にいないだろ。
プルト　書くならもっとまともな文章書くわよ。じゃあわたしたちはウラヌスに帰ってパイプライン建設を進めますので。
ユピテル　おい。
プルト　さようなら。
メルクス　ああ切られた。
サトゥルス　行くなら俺達も乗せてくれればいいのに。

ヴィナス　本当だよね。
ユピテル　たぶん合わせる顔が無いんだろう。
ヴィナス　いやに冷静ですね。
ユピテル　いつかこうなるだろうと思っていた。

溜め息を付くユピテル。

サトゥルス　とにかく俺達もなんとか帰らないと。
ヴィナス　でもういろうが足りない。
サトゥルス　名物なんだろういろうってなんでそんなに少ないんだよ。
メルクス　名物って意外と食べないから。
サトゥルス　食べないのに名物っておかしいだろ変えろよ名物。
メルクス　わたしに怒らないでよ。
サトゥルス　もう一度探しに行くしかないな。
ヴィナス　行きましょうユピテルさん。
ユピテル　……。
ヴィナス　ユピテルさん。
ユピテル　散々探しただろ無駄だ。
メルクス　完全に意気消沈してる。
ヴィナス　気持ちは分かりますけどこのまま行ったら星ごと消されますよ。
ユピテル　それもまた良し。
サトゥルス　わあ今度は達観し始めてる。
メルクス　一番年上なんですからユピテルさん。
ユピテル　これが悟りか。
サトゥルス　遂に悟りを開いたよ。
ヴィナス　メルクスなんか方法ないの。
メルクス　無いわよ。
ヴィナス　ああもうどうしよう。

頭を抱える人々。
上手から田中が現れる。

田中　ただいま。
ヴィナス　田中さん。
サトゥルス　なんで戻って来たんだよ。
田中　なんでって言われても。
サトゥルス　逃げたんだろお前。
田中　そうだけど。
メルクス　じゃあおかしいでしょ。
田中　いやまあ確かにそうなんだけどういろう無いと帰れないだろうと思って。
ヴィナス　ええじゃあもしかして。
田中　友人の従兄弟の隣人にういろう工場にいる人思い出して。
サトゥルス　いい奴だなお前。
田中　ちょっと待ってて。
メルクス　わたしも行く。

上手に消える田中とメルクス。
しばらくして上手から田中とメルクス登場。
大量のういろうを抱えている二人。

サトゥルス　おお凄い。
ヴィナス　これで行けそう？
メルクス　むしろお土産に出来るくらいあるかも。
サトゥルス　よしじゃあさっそく燃料にして詰め込むか。
メルクス　そうね。
田中　よしじゃあぼくは行くから。
ヴィナス　ありがとう田中さん。
サトゥルス　二度も誘拐したのは間違いじゃなかった。

田中　じゃあお元気で。

田中上手より消える。

メルクス　よしじゃあさっそく作業に入るわ。

メルクス中央右のドアに入る。

田中上手より現れる。

田中　ただいま。

サトゥルス　なんだよ。

田中　冷たいなおい。

ヴィナス　何どうしたの。

田中　なんか船の周り囲まれてるんだけど。

サトゥルス　誰に。

田中　地球人に。ほら窓の外。

全員一斉に窓の外を見る。

外には大量の地球人達が押し寄せている。

ヴィナス　本当だ。

サトゥルス　なんでここがバレたんだ。

ヴィナス　田中さんわたしたちのこと誰かに喋った？

田中　うん。

サトゥルス　うんて。

田中　いやだってういろう貰うにも説明しなきゃいけないし。

サトゥルス　嘘を付けよそこは。

田中　あと友達とかにも結構話した。

ヴィナス　なんで。

田中　面白いから。
サトゥルス　馬鹿野郎！
田中　痛いなもう。
ヴィナス　活躍が全て台無しになる程の口の軽さね。

船を叩く音が聞こえてくる。

サトゥルス　なんの音だ。
ヴィナス　なんか船叩かれてない？
サトゥルス　俺達憎まれてるからそういえば。
ヴィナス　メルクス。メルクス。

ヴィナス、中央右のドアに向けて叫ぶとメルクスが現れる。

メルクス　なにもううるさいな。
ヴィナス　外見て外。
メルクス　わあ人がいっぱいだ。
ヴィナス　現在の状況を説明すると
メルクス　いや大体分かった。急がないといけないのね。
サトゥルス　そうそうそう。
メルクス　えっとそれじゃあユピテルさんお手伝いして頂いても。

答えないユピテル。

ヴィナス　とりあえずメルクスは戻って。ユピテルさん。
サトゥルス　状況分かってるだろ。
ユピテル　神を名乗った罰だな。
サトゥルス　名乗ったのはあんただけだろ。
ユピテル　お前らも神の領域を侵しただろ。

ヴィナス　そんなこと言ってる場合じゃないでしょ。
ユピテル　我々如きが神を名乗るなんて身の程知らずだった。
サトゥルス　だからそれは関係無いですよ。
メルクス　お願いです一人じゃ間に合わないかも。
ヴィナス　前にあなた意思の話をしてたでしょ。本当に口だけなんですかあなた。
ユピテル　好きに思えばいい。
ヴィナス　あの時の言葉は単に自分への皮肉だったんですか。あなただって本当は地上げ屋みたいなことしたくないんでしょ。ならあなたもそうならないように動じない意思を持ってください。
サトゥルス　お願いしますユピテルさん。
田中　助けてあげなさいユピテル。
ユピテル　お前に言われるとムカつくな。

音が段々酷くなってくる。

メルクス　わたし行くから。

メルクス、中央右のドアに入る。

ヴィナス　ユピテルさん。
サトゥルス　ユピテルさん。
田中　ユピテル。
ユピテル　なんでお前だけ呼び捨てなんだよ。
田中　行けよユピテル行けば分かる。
ユピテル　ああもう分かったうるさいな。

ユピテル、中央右のドアに入る。

メルクス　燃料入れながら離陸する。揺れ激しいからね。

田中　大丈夫だ行けメルクス。

ヴィナス　なんであなたが仕切ってるのよ。

メルクス、中央右のドアから現れる。

メルクス　飛ばない。

ヴィナス　ええなにどういうこと。

メルクス　分からない飛ばない。

田中の携帯が鳴る。

田中　なんだよこんな時に。

サトゥルス　どういうことだよ。

メルクス　だから分からないって。

ヴィナス　燃料は大丈夫なんでしょ。

メルクス　大丈夫なはずだけど。

ヴィナス　はずってなに。

田中　ちょっとちょっとちょっとちょっとちょっと。

サトゥルス　なんだよ。

田中　これ見てこれこれこれ。

サトゥルスに携帯を見せる田中。

サトゥルス　なんだこれちょっとヴィナス。

ヴィナス　なに。

無理矢理田中の携帯を見せるサトゥルス。

ヴィナス　はあ？

サトゥルス　おいおいおいなんだよおい。
メルクス　なにどうしたの。
ヴィナス　『神を騙った者たちに罰を下す。神より』。
メルクス　なにそれ。

ユピテル、中央右のドアから現れる。

ユピテル　なんだどうしたこんな時に。
サトゥルス　ああ面倒くさいのが来た。
ユピテル　なんだ見せろ。

無理矢理携帯を見るユピテル。

ユピテル　終わりだ本物の神が。
ヴィナス　ああまた意気消沈しちゃったよ。
サトゥルス　この人メンタル弱過ぎだろ。
メルクス　しっかりしてくださいよ最年長。
ユピテル　そうだな大丈夫大丈夫だ。
田中　でどうしようこれ。
サトゥルス　んなこと言われてもどうする。
メルクス　分かんない分かんない。
ヴィナス　ええとじゃあじゃあじゃあ謝るしかないんじゃない。
サトゥルス　謝るって誰に。
ヴィナス　神様に。
サトゥルス　どう謝ればいいんだよ。
ヴィナス　とりあえず空に向かって謝りましょう。
サトゥルス　本当にそれでいいのか。
ヴィナス　分からないわよとりあえず謝りましょう。
サトゥルス　なんかごめんなさい。

ヴィナス　ごめんなさい。
メルクス　すいませんでしたほらユピテルさんも。
ユピテル　大変申し訳ないと思う。

田中の携帯が鳴る。

田中　おお。
ヴィナス　ああ返事来た。
サトゥルス　『田中が謝ってないから駄目。神より』。
ユピテル　なにをしているんだ田中。
ヴィナス　あなたも謝ってよ。
田中　俺なにもしてないだろむしろ犠牲者だろ。
サトゥルス　いいから謝れよ。
ユピテル　謝りなさい。
メルクス　わたし機関室に戻るから早く。
ヴィナス　ほら早くしてよ。
ユピテル　早く謝りなさい。
田中　なんでだよ。
ユピテル　君の謝罪に全てが掛かっている。君は悪くないかもしれないが君が謝ることで星がひとつ救われる。理不尽と思うかもしれないがそれが大人というものだ。君が世界を救いなさい。
田中　あんたに言われたくないよ。
ユピテル　どうして。
田中　仕事から逃げた癖に。
ユピテル　じゃあ君もそんなわたしみたいになりたいのか。
サトゥルス　そうだこんな大人になりたいのか。
ヴィナス　こんな負け犬になっちゃ駄目。
ユピテル　う、うん。そうだそうだとも。
田中　なんだかすいませんでした。

田中の携帯が鳴る。

サトゥルス　来た来た来た。

ヴィナス　なんて？

田中　『いいよ。神より』。

宇宙船が動き始める。

ヴィナス　ああ動き始めた。

サトゥルス　やったこれで帰れる。

ヴィナス　ああ良かった本当良かった。

ユピテル　うん良かった良くはないけど良かった。

田中　良かったな皆。

サトゥルス　ありがとう田中。

ヴィナス　本当にありがとう。

田中　喜んで貰えてぼくも嬉しいよってぼくはどうなるんだよ。

サトゥルス　ん？

田中　どうも地球からどんどん離れていくんだけど。

ヴィナス　あ、ああ。

サトゥルス　う、うん。

田中　ぼくはどうなるんだよ。

ヴィナス　えっとどんまい。

サトゥルス　同じＤＮＡだし向こうでもうまくやれるよ田中なら。

田中　おいどうするんだよ。おーい。

宇宙船に田中の声がこだまする。

長い沈黙。

ヴィナスが窓の外を眺めている。
メルクスが左のドアから現れる。

メルクス　なんか飲む。
ヴィナス　ううんいらないありがとう。
メルクス　田中さんはどうなったの。
ヴィナス　しばらく途方に暮れてたけど突然開き直って地球の為にウラヌスで戦うってさ。
メルクス　そうなんだ。
ヴィナス　それでなんかユピテルさんも巻き込もうとしてる。
メルクス　そりゃ無理でしょ。
ヴィナス　それが意外とやる気っぽいのよ。あの人もなんだかよく分からないよね。
メルクス　もしかするとこの中で一番変人かも。
ヴィナス　そうだね。
メルクス　うん。

沈黙。

メルクス　にしてもさ。
ヴィナス　うん。
メルクス　あれなんだったんだろう。

サトゥルスが右のドアから現れる。

ヴィナス　メッセージのこと。
メルクス　そう。
ヴィナス　あなたに分からないんじゃわたしにも分からないよ。
サトゥルス　なんだよまたその話してんのか。
メルクス　だって気になるでしょ。

サトゥルス　まあね。
ヴィナス　ウラヌスよりももっと進んだ文明を持った人たちもどこかにはいるんだろうね。
メルクス　たぶんね。
ヴィナス　その人たちなら分かるのかな。
メルクス　わたしたちがこうやって宇宙を飛んだり遠くの人と通信したり大昔の人から見たらきっと神様なんだろうね。
サトゥルス　大きな視点から見たらだたの虫だよ全部。
ヴィナス　いつか科学で証明される日が来るのかな。
メルクス　もしかしたら科学という概念自体が否定される日が来るかもね。
ヴィナス　そうしたらどうなっちゃうんだろう。
メルクス　分からない。
ヴィナス　そうだよね。
メルクス　じゃあわたし機関室に戻るから。

メルクス、中央右のドアに入る。

沈黙。

サトゥルス　結局なにひとつ課題進まなかったな。
ヴィナス　でも代わりに星間パイプラインについて調べることにした。
サトゥルス　そうか。
ヴィナス　だからその調査も付き合ってね。
サトゥルス　なんでいつもいつも俺なんだよ他にもいるだろ。
ヴィナス　いないよこんな暇人。
サトゥルス　お前に言われたくないんだけど。
ヴィナス　じゃあ決定ね。
サトゥルス　まあいいけどさ。
ヴィナス　……ありがとねいつも。
サトゥルス　ん。

ヴィナス　ねえ音楽掛けてもいいかな。

サトゥルス　うん。

ヴィナスがスイッチを入れると音楽が流れ始める。

宇宙船はウラヌスに向かって飛び続ける。

窓の外を眺めるヴィナスとサトゥルス。

幕